

様式第2号（第9条関係）

会 議 録

会議の名称	令和6年度第5回ふじみ野市社会教育委員会議			
開催日時	令和7年2月17日（月） 開会時刻 午前10時00分 閉会時刻 午前11時40分			
開催場所	ふじみ野市役所 第4庁舎 2階 D201会議室			
出席した者の 氏名 （委員15人 中11人出席）	役職名	氏名	役職名	氏名
	議 長	齊 藤 宏	委 員	岩 舘 豊
	副議長	中 窪 由香理	委 員	小 澤 真 樹
	委 員	山 口 ゆかり	上福岡西公民館長	内 田 徳 子
	委 員	千 葉 信	事務局(課長)	木 村 裕 之
	委 員	石 川 健 一	事務局(副課長)	小 林 久 美
	委 員	江 科	事務局(主事)	近 藤 彩 香
	委 員	清 水 篤 史		
	委 員	長谷川 節 子		
	委 員	大 久 保 昭 男		
会議の議題	1 議事 令和6年11月答申（市民とともにつくる社会教育事業のあり方について）を受けての教育委員会の考えについて 2 報告 第4期ふじみ野市立図書館サービス計画パブリックコメントについて 3 その他 情報交換等			
会議の公開又は非公開の別	公開			
会議の非公開の理由				
傍聴人の数	2人			
発言の内容	別紙「発言の要旨」のとおり			
会議資料	別添のとおり			
事務局	教育部 社会教育課			
議事の確定	確定年月日	令和7年3月31日		
	記名押印	役職名 議 長 齊 藤 宏 ㊟		

別紙

発言者	発言の要旨
木村課長	開会の挨拶 ・出席者 11 名、欠席者 4 名で会議成立の報告 ・傍聴者 2 名の報告
齊藤議長	議事進行 配付資料の確認
事務局 (近藤)	当日配付資料の確認
齊藤議長	議事進行 1 議事「令和 6 年 11 月答申（市民とともにつくる社会教育事業のあり方について）を受けての教育委員会の考えについて」
事務局 (小林)	資料 1 「社会教育委員会議答申を受けた今後の対応について」 資料 2 答申「市民とともにつくる社会教育事業のあり方について」 資料 3 「社会教育法（抜粋）第 17 条」 資料 4 「ふじみ野市社会教育委員会議規則」に基づき説明。 ・答申において、特に下記の意見を受け、教育委員会としての今後の対応を検討した。 【答申内容（抜粋）】 ・公民館運営審議会の廃止による新たな組織の構築が重要な課題であり、市民参加の一層の促進を図り、市民の意見・要望を施策等により一層反映した社会教育事業の企画・立案等を担保できる組織の設置が必要である。 ・また、その組織は幅広い年齢層の中からふさわしい人材をバランスよく選任し、「権限や責任」を持ち、規則に明確に位置付けることが望ましい。 ・答申を受けての具体的な内容としては以下のとおり。 (1) ふじみ野市社会教育委員会議規則第 5 条の改正 これまでの特定の事項調査及び審議する必要がある際に臨時で設置できる専門委員会のほかに、社会教育事業の計画立案に対し教育委員会に助言するための常設の専門委員会を設置する。 (2) 専門委員会（常設）の運営規則（内規）を制定 専門委員会（常設）は社会教育委員の互選により 10 名以内で選出し構成。必要があるときは委員以外の出席を求め、意見聴取することができることとする。 (3) 行政職員のネットワーク会議の実施 学校運営協議会委員となっている行政職員のネットワーク会議（庁内学校運営協議会委員連絡会議）において、各課の課題に関する情報交換等も行い、社会的課題のニーズを把握しながら、課題解決に向けた学習プログラムの企画・立案につなげる。

発言者	発言の要旨
	(4) 今後のスケジュールについては、3月の公民館運営審議会において説明後、規則改正を進めていく。上福岡西公民館が9月28日で閉館し、10月以降新たな体制で社会教育事業を展開していくこととなるが、それを待たず早い段階から専門委員会の組織を立ち上げたい。異動等による社会教育委員の新メンバーが確定する6月以降に専門委員会の選出の予定である。9月までに公民館運営審議会との合同会議の場も設け、双方に情報交換できるよう調整していく。
齊藤議長	議事進行 質疑応答
大久保委員	必置の専門委員会の運営について、規則で定めるのか、要綱で定めるのかという点も課題である。その点もよく検討してほしい。
事務局 (小林)	専門委員会の運営規則については、教育長決裁の内規として定める方針である。運用していく中で臨機応変により良い形に変えていきたい。
石川委員	今回の答申を検討するにあたって、専門委員会では議長はオブザーバーとして参加したが、今後はどのような形になるのか。
事務局 (小林)	専門委員会の中で委員長を決める方針。議長をオブザーバーにといった規定は設けず、参加する場合は委員としての参加となる。
石川委員	附帯意見の内容について、運用については検討していく必要があるが、行政全体として社会教育をどのように考えれば良いのか、連携をとった良い形で進めていけると感じた。
齊藤議長	議事進行 2 報告「第4期ふじみ野市立図書館サービス計画パブリックコメントについて」 資料5 「第4期ふじみ野市立図書館サービス計画（案）に関する意見等の募集結果について」に基づき説明。 ・計画に関するご意見は0件。 ・施設管理に関するご意見1件については、直接個人に対し説明の予定。
齊藤議長	議事進行 3 その他
事務局 (小林)	次回会議について 令和7年度第1回会議を6月頃開催予定
齊藤議長	進行 各委員による情報交換

発言者	発言の要旨
山口委員	鶴ヶ岡コミュニティセンターの梅まつりにガチャガチャバンドとして参加。小さなお子さんを子育て中の方や楽譜が読めない方など誰でも参加できて音楽に触れることを目的としたバンドで、様々な来場者とも触れ合うことができた。地域のふれあいの場所になっていた。
千葉委員	上福岡歴史民俗資料館がなくなるため、上福岡歴史民俗資料館友の会は来年度の総会で解散することとなった。高齢者が多数のため、旧大井の方面で活動することは困難なため、残念だがこれを契機に解散となった。
石川委員	・全国的に部活動を地域移行していく動きが進んでいる。ふじみ野市では「部活支援」という形で現在５種目（野球・剣道・サッカー・陸上・バスケットボール）で地域が関わっている。 ・３月にスポーツ体験事業を実施予定。学校施設とスポーツセンターを活用し、スポーツ協会やスポーツ推進委員などが様々なブースをつくり、スポーツ体験の機会を設けている。
江委員	・「こども大学ふじみ野」に参加し、外国のおやつを通して国際理解を深める講座を実施。実際に外国のおやつを作って交流も深められた。 ・外国からふじみ野市に転入した子どもに対する日本語支援については、日本人の先生による講座と母国語が同じ外国人の先生による講座の二本立ての形になっている。外国人（特にネパール）の先生は人材が不足しており、人材確保や養成が課題。教育委員会には人材の確保をお願いしたい。
清水委員	・市内の行政職員のネットワーク会議について、明確に位置付けられることはふじみ野市の大きな財産だと感じる。他市の学校運営協議会の動きを見聞きしていても、教育委員会と行政と学校が一丸となっているのはふじみ野市の特徴である。 ・１月に上野台小学校ＰＴＡ主催による「ひかり祭」が開催された。保護者や地域ボランティアの方によって色々な出店やブースが設けられた。学校と保護者、地域が連携・協働し、ふじみ野市が目指す地域協働学校を推進できていることを感じた。 ・学校としても日本語指導員の人材不足は認識している。学校単位でできることではないが、この課題については教育委員会と共通理解を図っている。
長谷川委員	・放課後子ども教室と子育てサロンを見学した。放課後子ども教室では、教育をベースに充実した内容で、特別な支援を要する児童に対しても指導員が十分に対応しており、とても良い環境であると感じた。子育てサロンは防犯上の問題もあると思うが、地域とは遠い施設であるように感じた。利用者は小さい子どもとその保護者だが、子ども同士や保護者同士の関りはあまりないように見えた。より多くの方が参加できるよう改善の余地があるように見受けられた。 ・家庭教育アドバイザーの活動で、家庭での子どもへの叱り方や、学校での先生との関わり方について困っているという声をよく聞いた。公民館事業として、コミュニケーションについてロールプレイングも含めて学べるような

発言者	発言の要旨
大久保委員	プログラムを実施できると良い。 ・「第3期ふじみ野市教育振興基本計画」が2年かけ完成した。 ・「ふじみ野市立図書館サービス計画」について、市の情報拠点である図書館で、市民の学びをどう担保していくのかが特に課題である。若い世代が学び直していくための情報拠点になっていかないといけないと考えているが、そういった記述はない。図書館に行けば様々な情報を得られると思える施設でなければならない。
岩館委員	・文京学院大学まちづくり研究センターと社会教育課の共催で11月に火工廠跡地をめぐるまちあるきを開催した。その繋がりで大井小学校6年生の社会科の授業で火工廠のお話をさせてもらう。学びの場を移して展開できているため、今後の活動にも繋げていくことができるのではないかと。 ・地域史料を読む研究会でも、資料館に蓄積された史料から分かることがたくさんあり、史料が蓄積されていること、研究されていることの大切さを感じた。また、地域の学びに結び付けていくことが大切であると感じた。 ・今回の答申を通して、社会教育の概念がアップデートされた感覚がある。ふじみ野市は公民館を持たずして社会教育を推進するという独自の立場であると考え。様々な社会課題の中でどう社会教育を更新していくかを指し示した答申であり、文科省が社会教育を推進しようとしている方針とも合っている。具体的に実装していく段階に入っているのだと感じている。
小澤委員	・地域コーディネーターの活動として、「地域コーディネーターカフェ」（社会教育課主催）に参加した。研修会なども含めると毎月地域コーディネーター同士で顔を合わせる機会がありとても良かった。毎月の情報交換の中で現場の声が学校に届いていないという声もあり、最後のカフェには学校教育課も参加し、より充実した時間になった。 ・各学年の先生から授業に取り入れたいゲストティーチャーや内容をヒアリングし、新たな取り組みもできている。 ・裾野市「何もしない合宿」を視察し、自分も地域の会館を開き、地域の方や小中学生・高校生が顔見知りになる場づくりを始める。月に1回何をするわけではないが、自治会や支部社協等の協力を仰ぎ、少しずつ広がっていったら良いと考えている。
中窪副議長	・人権教育推進協議会の人権講演会で、ウクライナ出身のナターシャ・グジーさんのコンサートに参加した。実際の被爆体験の話を聞き、音楽に触れるという形が良かった。しかし参加者の年齢層が高い印象であった。地域によっては参加が難しいと感じた。 ・東台小の休校については、住民としては寂しい気持ちである。不安視はしていないが、どんな形になっていくのかという気持ちがある。
齊藤議長	・大井小学校の2年生に3週にわたってプログラミングの授業を行った。児童や先生にも好評であったが、日課の問題で今後も継続できるかは難しい。夏休みに図書館を利用し、児童及び保護者を対象に教室を実施するやり方も

発言者	発言の要旨
	検討していく。
齊藤議長	進行 事務局からも情報交換をお願いしたい。
木村課長	上福岡図書館については１３か月の工事期間を終え、２月１日にリニューアルオープンした。１日あたりの平均的な来館人数が９００～１，０００人程度のところ、リニューアルオープンの開館日は２，６００人以上の方が来館され、待ち望まれていたことを実感した。
内田館長	地域文化振興事業として、舞台芸術鑑賞会を実施。子ども向けの内容ではあるが、子どもも大人も楽しんでいただいた。 施設から遠く、行きたくても行けない人へのアプローチが社会教育事業の重要な点である。公民館という施設がなくなり、全市的に社会教育事業を展開していくにあたっての課題が今回の答申からも浮き彫りになり、改めて身を引き締めていきたい。
事務局 (小林)	自分が参加する地域活動の中で繋がった方は学生や子育て世代など様々である。行政として地域の担い手がいらないというように感じることもあるが、地域に出ていくと、地域のために活動したいという人がある。そういった方を行政が支援できるような仕組みづくりが必要だと感じている。
事務局 (近藤)	地域コーディネーターとの情報交換会の中で、それぞれ地域で抱える課題は様々であるが、それを集結したものがふじみ野市として考えていかねばならない社会課題なのだと感じている。来年度からは、社会教育委員会議の常設の専門委員会にてそういった課題の洗い出しを行い、社会教育事業をより良い形で展開していきたい。
齊藤議長	進行 その他、又は質疑応答
小澤委員	入間地区社会教育協議会のさわらび編集委員会に参加した。充実した内容で、良いものが出来上がるのではないかなと思う。
長谷川委員	郷土かるた大会は現在も実施しているのか。
事務局 (小林)	ふじみ野市子ども会育成団体連絡協議会が毎年県の郷土かるた大会を行っており、昨年は初めて市の郷土かるた大会も行われた。
長谷川委員	中学校の百人一首のように、小学校でも周知してぜひ利用してほしい。
山口委員	かるた遊びをしながら自分の故郷を知ることができる良いきっかけになる。放課後子ども教室でも取り入れられないか。

発言者	発言の要旨
事務局 (近藤)	事務局から希望校に貸出しており、実際に取り入れている教室もある。
山口委員	図書館などに展示してみるのはいかがでしょうか。
事務局 (小林)	作成した際に本庁舎ギャラリーに展示したことがある。今後検討していく。
石川委員	大谷翔平選手が全校にグローブを寄付したという件があったが、各校ではどのように管理がされているのか。
清水委員	基本的に管理は各校の判断となっているため他校の状況は分かりかねるが、上野台小学校では全クラスに回し、その後は地域のスポーツ団体等への貸出も行っている。ぜひ地域でも活用していただきたい。
岩館委員	公民館の改修工事などが始まっていくと思うが、これまでの取組等の資料はぜひ残してほしい。保存の制約等もあると思うが、公民館事業として蓄積してきたものが生かせることがあると思う。
齊藤議長	進行
中窪副議長	閉会の挨拶